



第2740地区 創立/1990年9月29日 認証/1990年10月22日

佐世保中央ロータリークラブ週報

会長：南部 建 / 副会長：前田 眞澄 / 幹事：田中 啓輔

2019～2020 年度クラススローガン

**ロータリーの和（輪）を広げよう
社会（ふるさと）に貢献しよう**

週報編集 / 公共イメージ・会報委員会：井手 陽一、川島 千鶴、西村 浩輝、崎元 英伸、有吉 中

本日の出席率 87.23%：会員数 49名・出席 34名・欠席 5名・出席規定免除会員 7名・ビジター 0名
前々回の修正出席率 87.23%：出席 31名・メイクアップ 2名・出席規定免除会員 3名



会長挨拶 / 南部 建君



皆様こんにちは。今日は冬らしい天気で気温も低いようですが、新型コロナウイルスにはかかっていませんか、横浜のクルーズ船では大変な事になっていますが船の中で二週間隔離だそうです、せっかくの船旅が台無しで旅行費用はどうなるのでしょうか。

先程、野村会員とスタッフが足りないと言う話をしていましたが、どの業界も人手不足で困っています。いま特別支援学校の生徒さんを体験入社で受け入れているそうです。純粋で一生懸命に働いてくれるそうです。二週間の体験を経て雇用するかを本人、ご両親を交えて話をするそうですが、早速採用を決めたそうです。会員の皆様もこの機会に是非話を聞いて考えてみてはいかがでしょうか、子供達の未来に希望が見えてくるのではないのでしょうか。

今日は佐世保地方総監、中尾剛久の卓話となっています。今、日本は目まぐるしい世界情勢の変化に対応しなければなりません。自衛隊の皆様は多種多様な任務を遂行され国の防衛から災害派遣と大変な仕事をして頂いているお陰で私達は安心して暮らせています。私達が気付かない大変さを今日の卓話で少しでも理解できればと思いますので、中尾様宜しくお願いします。

■ガバナー事務所より

- ・2740 地区ホームページ更新
- ①国際青少年交換 申請書一式
- ・第7回市内8ロータリークラブ会長・幹事会のご案内

■ガバナーエレクト事務所より

- ・2020～2021 年度 会長エレクト研修セミナー（PETS）開催について
- 日時 3月15日（日） 点鐘 13:30
- 会場 佐賀県 鹿島市 割烹 清川
- 対象者 次年度クラブ会長
- ・地区ビジョン（戦略計画）に関するアンケート調査

■佐世保ロータリークラブより

- ・2020-2021年度 市内8RC会長幹事会開催のご案内



ニコニコボックス

南部 建会長・前田 眞澄副会長・田中 啓輔幹事

今月は、平和と紛争予防紛争解決月間となっております。例会の内容は、このテーマにぴったりの会場自衛隊佐世保地方総監・中尾剛久様による卓話となっております。中尾総監、よろしくお願いいたします。

平岩 義明君

結婚記念のお花ありがとうございました。

馬渡 圭一君

親睦例会活動委員会委員長の馬渡です。来週開催予定の延寿会について、どうぞよろしくお願いいたします。また、ニコニコの収入ペースが鈍ってきております。皆様振るってご協力ください。なお、最近は再びニコニコ合計に端



幹事報告 / 田中 啓輔君

1. 例会変更・休会

*佐世保西ロータリークラブ

変更 2月18日（火）12:30～ 職場訪問例会
佐世保魚市場

休会 2月11日（木）

2. 来 信

■国際ロータリー日本事務局

- ・2月のロータリーレートのお知らせ 1ドル=110円

本日の合計	5,748 円
本年度の累計	658,000 円



本日の卓話

海上自衛隊佐世保地方總監
海将 中尾 剛久 様



～ 厳しい安全保障環境に立ち向かう
海上自衛隊隊員 ～

memo

1 安全保障環境と海自の活動について

～多様な任務への対応～

国土狹隘、資源希少な我が国は、地勢上の不変要素があるものの海洋の特性を生かして「生存」と「繁栄」を確保している。海洋国家であるため、海洋の3側面（天然の防壁、海上交通路と水産・鉱物資源地帯）を活かすことが重要である。

また、海上自衛隊の活動は、任務が多様化し、活動範囲や頻度が高まっている。そして、我が国を取り巻く安全保障環境は常に変化しており、自衛隊の災害派遣においても形態が変化している。このような環境があるにも関わらず、艦艇、航空機そして自衛隊員の定数はほぼ横ばい状態である。

2 海自の教育体系等

～海上自衛官はどのように養成されるか～

人の「量」が変わらない現状なので、「質」を向上させなければならない。そのため、任務が多様化し、活動範囲や頻度が高まりを見せる中、海自隊員の「教育」は益々重要な意味を持っている。

我々の教育は、新入隊員教育（素養教育）、キャリア・アップ（技能教育）、選抜教育に区分される。特に、素養教育は新入時だけではなく、繰り返し実施されており、重要視されている。

さて、我々の勤務上の特色として、「海を行動の場とした勤務」、「艦船や航空機の運航」、「国際性」がある。この特色から、教育面では海上での勤務に関する教育の必要性、教育の多様性、高技能教育の必要性、教育の重層性、国際的視野の習得に力を入れている。そして、海自教育の根底に流れる伝統として、五省・シーマンシップ・5分前の精神・出船の精神を教えている。

3 海上自衛官とは

～お役に立つ人材の宝庫～

「スマートで、目先が利いて、几帳面、負けじ魂、これぞ船乗り」という言葉がある。この言葉にあるように海上自衛隊の伝統がプロフェッショナルなマインドを醸成している。

また、自衛官には精強性が求められるため、一般職の公務員とは異なり若年定年制を採用している。そして、社会に役立つ人材の育成を考えると、海自の教育を受けた者が部隊勤務で責任感が向上し、チームワークを学び様々な経験をする。その者達が再就職等でお役に立つ人材が循環をし、社会貢献を、そして人材を募集するというサイクルをしている。

SAA: 倉科 聡一郎君
次回例会／2月13日18：30～

